

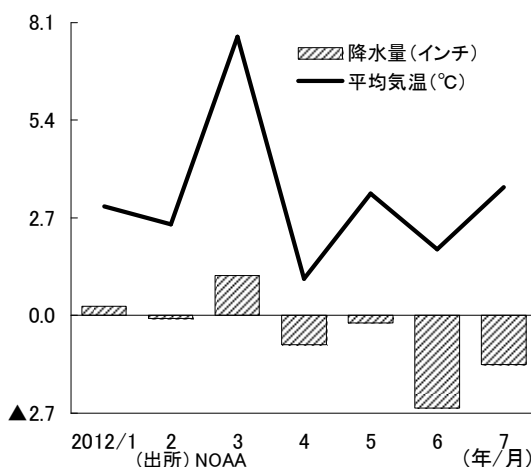


米国穀倉旱魃が7月深刻化

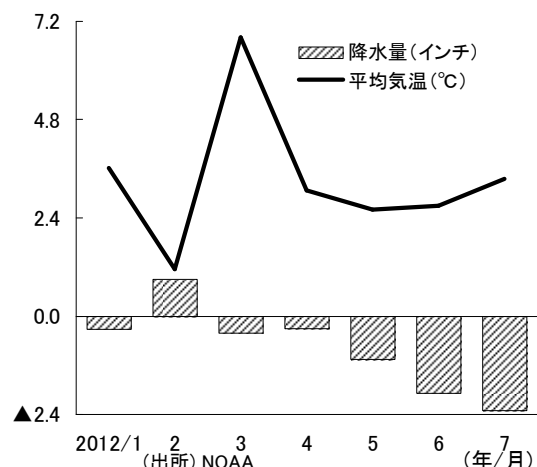
～ 続く記録的旱魃と熱波 ～

- (1) アメリカでは7月半ば以降、降水と気温低下。しかし全土でなく、東部や南部、西部の沿海州。アパラチア山脈からロッキー山脈までの中央エリアでは依然、深刻な旱魃。まずコーンや大豆の主要生産地である中西部では、7月第4週の降水で旱魃が若干緩和されたものの、平年差をみると引き続き降水不足（図表1）。一方熱波は一段と強まり、平均気温の平年差は6月の+1.8℃から+3.5℃へ拡大。なお、7月第4週の降水はイリノイ州やミシガン州など五大湖周辺。それ以外では、ミズーリ州をはじめ降水不足が6月より深刻化。
- (2) 次に小麦を中心に世界的穀倉地帯であるハイプレーンズ地域をみると、5月以降、月を追って降水量が減少。平年差は6月の▲1.9インチから7月▲2.3インチへ拡大（図表2）。一方、気温は一段と上昇。平年差は6月の+2.7℃から7月+3.4℃に。コーンと大豆が受粉期から開花期を迎えたため中西部が注目されがちなが、旱魃と熱波の深刻さではハイプレーンズが全米随一。
- (3) さらに南部の旱魃と熱波が継続（図表3）。内陸州では一段と深刻化。平年差はテネシー州で気温が6月+0.5℃から7月+1.4℃、降水量は6月▲0.5インチから7月▲2.5インチ。オクラホマ州で気温が6月+0.6℃から7月+2.3℃、降水量は6月▲3.8インチから7月▲3.9インチへ。総じてみれば、南部でも穀倉地帯の内陸部で7月、6月を上回る旱魃と熱波に。
- (4) 穀倉地帯での早期土壌回復は一層不透明。まず、上記3エリアの年間パターンをみると、例年5～7月が降水量のピークで、1～7月までの降水量が年間の6割と大半（図表4）。8月以降、月を追って降水量が減少。現状8月に多量の降水予報は見当たらず。土壌回復が遅れる場合、冬小麦をはじめ年後半の穀物生産にダメージ。食糧価格のさらなる上昇が視野。

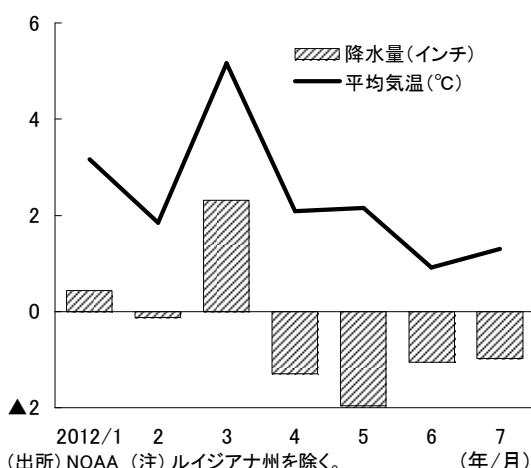
（図表1）アメリカ中西部の気温と降水量（平年差）



（図表2）ハイプレーンズの気温と降水量（平年差）



（図表3）南部の気温と降水量（平年差）



（図表4）3エリアの月次降水量（平年）

